

vSphere Replication 8.2 用 vRealize Orchestrator プラグインの使用

vSphere Replication 8.2



vmware®

最新の技術ドキュメントは、VMware の Web サイト (<https://docs.vmware.com/jp/>) でご確認ください。このドキュメントに関するご意見およびご感想は、docfeedback@vmware.com までお送りください。

VMware, Inc.
3401 Hillview Ave.
Palo Alto, CA 94304
www.vmware.com

VMware株式会社
105-0013 東京都港区浜松町 1-30-5
浜松町スクエア 13F
www.vmware.com/jp

Copyright © 2019 VMware, Inc. All rights reserved. [著作権および商標情報](#)。

目次

1	vSphere Replication プラグインの使用	5
2	vSphere Replication 用の VMware vRealize Orchestrator プラグインによる自動操作	6
3	vSphere Replication プラグインのインストール	8
	機能前提条件	8
	vSphere Replication プラグインのインストール、アップグレード、およびアンインストール	9
4	vSphere Replication プラグイン ワークフローの使用	10
	vSphere Replication プラグインで使用可能なワークフロー	10
	vSphere Replication プラグインを使用するための前提条件	14
	リモート サイト管理ワークフロー	14
	vCenter Server サイトとのベアリング ワークフロー	14
	クラウド サイトとのベアリング ワークフロー	15
	vCenter Server サイトへのログイン ワークフロー	15
	vCenter Server サイトの登録ワークフロー	16
	クラウド サイトの登録ワークフロー	16
	スタンドアロン組織の登録ワークフロー	17
	クラウド サイトの登録解除ワークフロー	17
	スタンドアロン組織の登録解除ワークフロー	17
	vCenter Server サイトの登録解除ワークフロー	18
	同期ワークフロー	18
	クラウドへのレプリケーションの完全同期ワークフロー	18
	vCenter Server へのレプリケーションの完全同期ワークフロー	18
	クラウドからのレプリケーションのオフライン同期ワークフロー	19
	クラウドへのレプリケーションのオフライン同期ワークフロー	19
	vCenter Server へのレプリケーションのオフライン同期ワークフロー	20
	クラウドからのレプリケーションの同期ワークフロー	20
	クラウドへのレプリケーションの同期ワークフロー	20
	vCenter Server へのレプリケーションの同期ワークフロー	21
	レプリケーションの構成ワークフロー	21
	レプリケーションの構成ワークフロー	21
	クラウドへのレプリケーションの構成ワークフロー	22
	クラウドからのレプリケーションの構成ワークフロー	23
	複数の仮想マシンの保護ワークフロー	24
	クラウド レプリケーションの反転ワークフロー	25
	レプリケーションの再構成ワークフロー	26
	一時停止ワークフロー	27

vCenter Server へのレプリケーションの一時停止	27
クラウドへのレプリケーションの一時停止ワークフロー	28
クラウドからのレプリケーションの一時停止ワークフロー	28
再開ワークフロー	29
vCenter Server へのレプリケーションの再開ワークフロー	29
クラウドへのレプリケーションの再開ワークフロー	29
クラウドからのレプリケーションの再開ワークフロー	29
レプリケーションの停止ワークフロー	30
レプリケーションの停止ワークフロー	30
クラウドへのレプリケーションの停止ワークフロー	30
クラウドからのレプリケーションの停止ワークフロー	31
クラウドへのリカバリ ワークフロー	31
クラウドへのテスト リカバリの実行ワークフロー	31
クラウド サイトでのテスト リカバリの実行ワークフロー	32
クラウドへのテスト クリーンアップの実行ワークフロー	33
クラウド サイトでのテスト クリーンアップの実行ワークフロー	33
クラウドへの計画移行の実行ワークフロー	34
クラウドへの実際のリカバリの実行ワークフロー	35
クラウドからのリカバリ ワークフロー	35
クラウドからのテスト リカバリの実行ワークフロー	35
クラウドからのテスト クリーンアップの実行ワークフロー	36
クラウドからの計画移行の実行ワークフロー	37
クラウドからの実際のリカバリの実行	38
レプリケーションの詳細ワークフロー	39
レプリケーション ステータスのワークフローのチェック	39
レプリケーション構成の取得ワークフロー	39
レプリケーション リストの取得ワークフロー	39

vSphere Replication プラグインの使用

1

「vSphere Replication プラグインの使用」では、VMware vSphere Replication 用の VMware[®] VMware vRealize Orchestrator プラグインの構成と使用に関する情報および注意について説明します。

対象読者

「vSphere Replication プラグインの使用」の情報は、vSphere Replication プラグインを使用して vSphere 環境でレプリケーションおよび構成タスクを自動化する熟練管理者向けです。この情報は、仮想マシン テクノロジー、VMware vRealize Orchestrator のワークフロー開発、および VMware vSphere Replication を理解した熟練ユーザー向けに作成されています。

VMware vRealize Orchestrator の詳細については、『vRealize Orchestrator のドキュメント』を参照してください。

vSphere Replication の詳細については、『VMware vSphere Replication のドキュメント』を参照してください。

vSphere Replication 用の VMware vRealize Orchestrator プラグインによる自動操作

2

vSphere Replication 用の VMware vRealize Orchestrator プラグインは、特定の vSphere Replication 操作の自動化機能を拡張します。

vSphere Replication プラグインには、vSphere Replication API の選択された要素をワークフローに公開するための VMware vRealize Orchestrator のアクション、ワークフロー、およびスクリプト作成オブジェクトが含まれています。このプラグインを使用すると、仮想マシンのレプリケーション構成の自動化、移行と実際のリカバリの実行、ローカル サイトとリモート サイトの管理、および仮想マシン データの同期を行うことができます。

このプラグインは、レプリケーションを構成および管理するためのアクションとワークフローを提供します。

- ターゲット vCenter Server またはクラウド サイトへの仮想マシンの正方向レプリケーションを構成する。
- ターゲット vCenter Server またはクラウド サイトからの仮想マシンの逆方向レプリケーションを構成する。
- ターゲット vCenter Server またはクラウド サイトへの仮想マシンの正方向レプリケーションを一時停止、再開、または停止する。
- ターゲット vCenter Server またはクラウド サイトからの仮想マシンの逆方向レプリケーションを一時停止、再開、または停止する。

このプラグインは、リカバリを実行するためのアクションとワークフローを提供します。

- ターゲット クラウド サイトとの間で計画移行を実行する。
- ターゲット クラウド サイトとの間で実際のリカバリを実行する。
- ターゲット クラウド サイトとの間でテスト クリーンアップを実行する。
- ターゲット クラウド サイトとの間でテスト リカバリを実行する。

このプラグインは、リモート サイトを管理するためのアクションとワークフローを提供します。

- ローカル サイトとターゲット vCenter Server またはクラウド サイトをペアリングする。
- スタンドアロン組織、クラウド、または vCenter Server サイトを登録する。
- スタンドアロン組織、クラウド、または vCenter Server サイトを登録解除する。

このプラグインは、仮想マシン データを同期するためのアクションとワークフローを提供します。

- ターゲット vCenter Server またはクラウド サイトへの完全な同期。
- ターゲット クラウド サイトとのオフライン同期。

- ターゲット vCenter Server サイトへのオフライン同期。
- ターゲット クラウド サイトとの間でレプリケーションを同期する。
- ターゲット vCenter Server サイトに対してレプリケーションを同期する。

このプラグインは、レプリケーションのステータスまたは構成の詳細情報を取得するためのワークフローとアクションを提供します。ワークフローの結果は、他のワークフローでパラメータとして使用できます。

- レプリケーションのステータスを取得する。
- レプリケーションの構成の詳細を取得する。
- vCenter Server からすべての受信または発信レプリケーションのリストを取得する。

vSphere Replication プラグインのインストール

3

ローカル vSphere Replication サイトでワークフローを作成して実行するには、vSphere Replication プラグインを VMware vRealize Orchestrator にインストールして構成する必要があります。

この章には、次のトピックが含まれています。

- [機能前提条件](#)
- [vSphere Replication プラグインのインストール、アップグレード、およびアンインストール](#)

機能前提条件

vSphere Replication プラグインをインストールおよび使用するには、システムが特定の機能前提条件を満たす必要があります。

vSphere Replication

使用する vSphere Replication プラグインのバージョンと vSphere Replication に互換性があることを確認します。

vSphere Replication プラグインと vSphere Replication との互換性の詳細については、『VMware vRealize Orchestrator Plug-In for vSphere Replication 8.2 リリース ノート』を参照してください。

vSphere Replication のセットアップの詳細については、『vSphere Replication のインストールと構成』ドキュメントを参照してください。

VMware vRealize Orchestrator

VMware vRealize Orchestrator のインスタンスが実行中で、そのバージョンが vSphere Replication および vSphere Replication プラグインのバージョンと互換性があることを確認します。

vSphere Replication と vRealize Orchestrator との互換性の詳細については、『vSphere Replication 8.2 Release Notes』および『Compatibility matrices for vSphere Replication』ドキュメントを参照してください。

VMware vRealize Orchestrator のセットアップ、vRealize Orchestrator クライアントへのログイン、使用可能な認証方法の詳細については、『VMware VMware vRealize Orchestrator のインストールと構成』ドキュメントを参照してください。

その他の前提条件

- VMware vRealize Orchestrator 用の vCenter Server プラグインがインストールされていることを確認します。VMware vRealize Orchestrator ドキュメントの「vCenter Server プラグインの使用」トピックを参照してください。
- vCenter Server の追加ワークフローを使用して、レプリケーションに使用するすべての vCenter Server インスタンスが追加されていることを確認します。詳細については、VMware vRealize Orchestrator ドキュメントの「Configure the Connection to a vCenter Server Instance」トピックを参照してください。

vSphere Replication プラグインのインストール、アップグレード、およびアンインストール

vSphere Replication プラグインを使用するには、最初に vRealize Orchestrator インスタンスにインストールします。vSphere Replication プラグインは、vSphere Replication および vRealize Orchestrator と互換性があるバージョンをインストールする必要があります。

vSphere Replication プラグインのインストール

vRealize Orchestrator インスタンスが vSphere 環境と連携するように構成されている場合は、vSphere Replication プラグインをインストールできます。

vSphere 環境を使用するには、vRealize Orchestrator を構成する必要があります。vSphere 環境に対応するように vRealize Orchestrator を構成する方法の詳細については、『VMware vRealize Orchestrator のインストールと構成』ドキュメントの「vRealize Orchestrator の構成」セクションを参照してください。

vSphere Replication のダウンロード ページから vSphere Replication プラグインのインストール ファイル `.vmoapp` をダウンロードできます。

vSphere Replication 8.2 プラグインを VMware vRealize Orchestrator 7.6 にインストールするには、https://your_orchestrator_server:8283/vco-controlcenter 構成インターフェイスを使用します。[プラグインの管理] をクリックして、ファイルをアップロードしてください。vRealize Orchestrator プラグインの管理方法の詳細については、「VMware vRealize Orchestrator のインストールおよび構成」ドキュメントの「Orchestrator プラグインの管理」トピックを参照してください。

vSphere Replication プラグインのアップグレード

以前のバージョンをアンインストールして新しいバージョンをインストールすると、vSphere Replication プラグインをアップグレードできます。

注: vSphere Replication プラグインをアップグレードした後に以前のバージョンに戻すには、再インストールする必要があります。

vSphere Replication プラグインのアンインストール

vSphere Replication プラグインのアンインストールの詳細については、[プラグインのアンインストール](#)または VMware ナレッジベースの記事 (<https://kb.vmware.com/s/article/2151653>) を参照してください。

vSphere Replication プラグイン ワークフローの使用

4

vSphere Replication プラグイン ワークフロー ライブラリには、vSphere Replication タスクの自動化に使用できるワークフローが含まれています。事前定義済みのワークフローを使用して、仮想マシンのレプリケーションの構成と管理、リモート サイトの追加/ペアリング/削除、テストの実行、リカバリ、クラウド サイトとの間でのクリーンアップを行うことができます。プラグインの事前定義済みのワークフローとスクリプト作成 API を使用すると、カスタム ワークフローを作成できます。

この章には、次のトピックが含まれています。

- [vSphere Replication プラグインで使用可能なワークフロー](#)
- [vSphere Replication プラグインを使用するための前提条件](#)
- [リモート サイト管理ワークフロー](#)
- [同期ワークフロー](#)
- [レプリケーションの構成ワークフロー](#)
- [一時停止ワークフロー](#)
- [再開ワークフロー](#)
- [レプリケーションの停止ワークフロー](#)
- [クラウドへのリカバリ ワークフロー](#)
- [クラウドからのリカバリ ワークフロー](#)
- [レプリケーションの詳細ワークフロー](#)

vSphere Replication プラグインで使用可能なワークフロー

vSphere Replication プラグインには、リモート サイトの管理および同期ワークフロー、レプリケーションワークフローの構成、一時停止、再開、停止、クラウドからのリカバリ ワークフロー、およびレプリケーションの詳細ワークフローが用意されています。

表 4-1. [リモート サイト管理] ワークフロー

ワークフロー	操作の説明
vCenter Server サイトとのペアリング	ローカル サイトをリモート vCenter Server サイトに接続してペアリングする
クラウド サイトとのペアリング	ローカル サイトをリモート クラウド サイトに接続してペアリングする
vCenter Server サイトへのログイン	単一 vCenter Server インスタンスを持つレプリケーションに対して選択したリモート vCenter Server サイトへのログインを実行します
クラウド サイトの登録	ペアリングされたクラウド サイトのログイン認証情報を登録する
スタンドアロン組織の登録	ペアリングされたスタンドアロン組織のログイン認証情報を登録する
vCenter Server サイトの登録	ペアリングされた vCenter Server サイトのログイン認証情報を登録する
クラウド サイトの登録解除	ペアリングされたクラウド サイトの保存されたログイン認証情報を削除する
スタンドアロン組織の登録解除	ペアリングされたクラウド サイトの保存されたログイン認証情報を削除する
vCenter Server サイトの登録解除	ペアリングされた vCenter Server サイトの保存されたログイン認証情報を削除する

表 4-2. [同期] ワークフロー

ワークフロー	操作の説明
クラウドへのレプリケーションの完全同期	レプリケートされた仮想マシンのクラウド サイトへの初期完全同期を実行する
vCenter Server へのレプリケーションの完全同期	レプリケートされた仮想マシンのリモート vCenter Server サイトへの初期完全同期を実行する
クラウドからのレプリケーションのオフライン同期	レプリケートされた仮想マシンのリモート クラウド サイトからのオフライン同期を実行する
クラウドへのレプリケーションのオフライン同期	レプリケートされた仮想マシンのリモート クラウド サイトへのオフライン同期を実行する
vCenter Server へのレプリケーションのオフライン同期	レプリケートされた仮想マシンのリモート vCenter Server サイトへのオフライン同期を実行する
クラウドからのレプリケーションの同期	レプリケートされた仮想マシンのリモート クラウド サイトからの差分同期を実行する
クラウドへのレプリケーションの同期	レプリケートされた仮想マシンのリモート クラウド サイトへの差分同期を実行する
vCenter Server へのレプリケーションの同期	レプリケートされた仮想マシンのリモート vCenter Server サイトへの差分同期を実行する

表 4-3. [レプリケーションの構成] ワークフロー

ワークフロー	操作の説明
レプリケーションの構成	ローカル サイトからターゲット vCenter Server サイトへの仮想マシンのレプリケーションを構成する
クラウドからのレプリケーションの構成	ターゲット クラウド サイトからローカル サイトへの仮想マシンのレプリケーションを構成する
クラウドへのレプリケーションの構成	ローカル サイトからターゲット クラウド サイトへの仮想マシンのレプリケーションを構成する
複数の仮想マシンの保護	ターゲット クラウドまたは vCenter Server サイトへの複数の仮想マシンのレプリケーションを構成する
クラウド レプリケーションの反転	ターゲット クラウド サイト上のリカバリされた仮想マシンのレプリケーションを反転する
レプリケーションの再構成	新しい仮想ハードディスク上のレプリケーションの再構成、デフォルトのシードによる仮想マシン フォルダ内のレプリカ ディスクの使用の有効化など、レプリケーションの設定を変更する

表 4-4. [一時停止] ワークフロー

ワークフロー	操作の説明
クラウドからのレプリケーションの一時停止	クラウドからローカル サイトへの仮想マシンのレプリケーションを一時停止する
クラウドへのレプリケーションの一時停止	ローカル からターゲット クラウド サイトへの仮想マシンのレプリケーションを一時停止する
vCenter Server へのレプリケーションの一時停止	ローカル サイトからリモート vCenter Server サイトへの仮想マシンのレプリケーションを一時停止する

表 4-5. [再開] ワークフロー

ワークフロー	操作の説明
クラウドからのレプリケーションの再開	クラウドからローカル サイトへの仮想マシンのレプリケーションを再開する
クラウドへのレプリケーションの再開	ローカル からクラウド サイトへの仮想マシンのレプリケーションを再開する
vCenter Server へのレプリケーションの再開	ローカル サイトからリモート vCenter Server サイトへの仮想マシンのレプリケーションを再開する

表 4-6. [レプリケーションの停止] ワークフロー

ワークフロー	操作の説明
レプリケーションの停止	ローカル サイトからリモート vCenter Server サイトへの仮想マシンのレプリケーションを停止する
クラウドからのレプリケーションの停止	クラウド サイトからローカル サイトへの仮想マシンのレプリケーションを停止する
クラウドへのレプリケーションの停止	ローカル サイトからクラウド サイトへの仮想マシンのレプリケーションを停止する

表 4-7. [クラウドへのリカバリ] ワークフロー

ワークフロー	操作の説明
クラウドへの計画移行の実行	ローカル サイトからターゲット クラウド サイトに仮想マシンを移行する
クラウドへの実際のリカバリの実行	ローカル サイトからターゲット クラウド サイトにレプリケートされた仮想マシンをリカバリする
クラウド サイトでのテスト クリーンアップの実行	ターゲット クラウド サイトのレプリケートされた仮想マシンのテスト リカバリ結果をクリーンアップする
クラウドへのテスト クリーンアップの実行	ターゲット クラウド サイトにレプリケートされた仮想マシンのテスト リカバリ結果をクリーンアップする
クラウド サイトでのテスト リカバリの実行	ターゲット クラウド サイトにレプリケートされた仮想マシンのテスト リカバリをターゲット クラウド サイトで実行する
クラウドへのテスト リカバリの実行	ターゲット クラウド サイトにレプリケートされた仮想マシンのテスト リカバリをローカル サイトで実行する

表 4-8. [クラウドからのリカバリ] ワークフロー

ワークフロー	操作の説明
クラウドからの計画移行の実行	ターゲット クラウド サイトからローカル サイトに仮想マシンを移行する
クラウドからの実際のリカバリの実行	リモート クラウド サイトからローカル サイトにレプリケートされた仮想マシンをリカバリする
クラウドからのテスト クリーンアップの実行	リモート クラウド サイトからローカル サイトにレプリケートされた仮想マシンのテスト リカバリ結果をクリーンアップする
クラウドからのテスト リカバリの実行	リモート クラウド サイトからローカル サイトにレプリケートされた仮想マシンのテスト リカバリを実行する

表 4-9. [レプリケーションの詳細] ワークフロー

ワークフロー	操作の説明
レプリケーション状態のチェック	レプリケーションのステータスを取得する。レプリケーションの値は、別のワークフローでパラメータとして使用できます
レプリケーション構成の取得	レプリケーションの構成の詳細を取得する。レプリケーションの値は、別のワークフローでパラメータとして使用できます
レプリケーション リストの取得	vCenter Server からすべての受信または発信レプリケーションのリストを取得する。レプリケーションの値は、別のワークフローでパラメータとして使用できます

vSphere Replication プラグインを使用するための前提条件

vSphere Replication プラグインを使用するには、使用環境が特定の要件を満たす必要があります。

- vRealize Orchestrator を使用して vSphere インベントリ内のオブジェクトを管理し、オブジェクトに対してワークフローを実行する前に、vCenter Server プラグインを構成し、vRealize Orchestrator と統合する vCenter Server との間の接続パラメータを定義する必要があります。vSphere 環境に対応するように vRealize Orchestrator を構成する方法の詳細については、『VMware vRealize Orchestrator のインストールと構成』ドキュメントの「vRealize Orchestrator の構成」セクションを参照してください。
- ターゲット サイトとの間のワークフローを実行する前に、[vSphere Replication] > [リモート サイト管理] の順に選択して、ターゲット サイトを使用可能なワークフローに登録していることを確認します。

リモート サイト管理ワークフロー

[リモート サイト管理] ワークフローを使用すると、ローカル サイトと、異なる vCenter Server が管理するリモート サイトまたはリモート クラウド サイトとの間の接続を構成できます。リモート サイトへのレプリケーション タスクを構成する前に、ローカル サイトとリモート サイトをペアリングする必要があります。

vCenter Server サイトとのペアリング ワークフロー

このワークフローは、ローカル サイトとリモート vCenter Server サイト間の接続を構成します。

手順

- 1 vRealize Orchestrator Client にシステム管理者でログインします。
- 2 [ワークフロー] ビューをクリックします。
- 3 検索ボックスに「**Pair with a VC Site**」と入力して、[Enter] を押します。
- 4 ワークフローをクリックし、[実行] をクリックします。

5 ワークフローで必要な入力パラメータを入力し、[実行] をクリックします。

表 4-10. vCenter Server サイトとのペアリング ワークフローの入力

入力		説明
ローカル サイト	ローカル サイト	ローカル vCenter Server サイト。
	ローカル サイトの Lookup Service のアドレス	Lookup Service が実行されているサーバの IP アドレスまたはドメイン名。
リモート サイト	リモート サイトの Lookup Service のアドレス	リモート vCenter Single Sign-On ドメインの Platform Services Controller が実行されているサーバの IP アドレスまたはドメイン名。
	リモート ユーザー名	リモート vCenter Single Sign-On ユーザー。
	パスワード	リモート vCenter Single Sign-On ユーザーのパスワード。

クラウド サイトとのペアリング ワークフロー

このワークフローは、ローカル サイトとターゲット クラウド サイト間の接続を構成します。

クラウドへのレプリケーション タスクを設定する前に、vSphere 環境と、ご使用のクラウド組織に属する仮想データセンター間の接続を設定する必要があります。

手順

- 1 vRealize Orchestrator Client にシステム管理者でログインします。
- 2 [ワークフロー] ビューをクリックします。
- 3 検索ボックスに「**Pair with Cloud Site**」と入力して、[Enter] を押します。
- 4 ワークフローをクリックし、[実行] をクリックします。
- 5 ワークフローで必要な入力パラメータを入力し、[実行] をクリックします。

表 4-11. クラウド サイトとのペアリング ワークフローの入力

入力		説明
ローカル サイト	ローカル サイト	ローカル vCenter Server サイト。
クラウド サイト	リモート クラウド API エンドポイントのアドレス	クラウド プロバイダの IP アドレス。
	クラウド組織名	スタンドアロン組織名。
	クラウド組織のユーザー名	クラウド ユーザーの認証情報。
	パスワード	

vCenter Server サイトへのログイン ワークフロー

このワークフローは、単一 vCenter Server インスタンスを持つレプリケーションに対して選択した vCenter Server サイトへのログインを実行します。

手順

- 1 vRealize Orchestrator Client にシステム管理者でログインします。
- 2 [ワークフロー] ビューをクリックします。
- 3 検索ボックスに「**Login to VC Site**」と入力して、[Enter] を押します。
- 4 ワークフローをクリックし、[実行] をクリックします。
- 5 vCenter Server サイトを選択して [実行] をクリックします。

vCenter Server サイトの登録ワークフロー

このワークフローは、リモート vCenter Server サイトのログイン認証情報を登録します。

前提条件

ローカル サイトが vCenter Server サイトとペアリングされていることを確認します。[vCenter Server サイトとのペアリング ワークフロー](#) を参照してください。

手順

- 1 vRealize Orchestrator Client にシステム管理者でログインします。
- 2 [ワークフロー] ビューをクリックします。
- 3 検索ボックスに「**Register VC Site**」と入力して、[Enter] を押します。
- 4 ワークフローをクリックし、[実行] をクリックします。
- 5 ペアリングされたリモートの vCenter Server サイト アドレスを入力し、[実行] をクリックします。

クラウド サイトの登録ワークフロー

このワークフローは、ローカル サイトとペアリングされているクラウド サイトのログイン認証情報を登録します。

前提条件

ローカル サイトがクラウド サイトとペアリングされていることを確認します。[クラウド サイトとのペアリング ワークフロー](#) を参照してください。

手順

- 1 vRealize Orchestrator Client にシステム管理者でログインします。
- 2 [ワークフロー] ビューをクリックします。
- 3 検索ボックスに「**Register Cloud Site**」と入力して、[Enter] を押します。
- 4 ワークフローをクリックし、[実行] をクリックします。
- 5 ペアリングされたリモート クラウド サイトを入力し、[実行] をクリックします。

スタンドアロン組織の登録ワークフロー

このワークフローは、クラウド組織のログイン認証情報を登録します。このワークフローでは、組織をローカル サイトとペアリングする必要はありません。

手順

- 1 vRealize Orchestrator Client にシステム管理者でログインします。
- 2 [ワークフロー] ビューをクリックします。
- 3 検索ボックスに「**Register Standalone Org**」と入力して、[Enter] を押します。
- 4 ワークフローをクリックし、[実行] をクリックします。
- 5 ワークフローで必要な入力パラメータを入力し、[実行] をクリックします。

表 4-12. スタンドアロン組織の登録ワークフローの入力

入力	説明	
クラウド組織の詳細	クラウドのアドレス	リモート クラウド サイトのアドレス。
	組織名	クラウド組織の名前。
	ユーザー名	リモート クラウド サイトのユーザー。
	パスワード	リモート クラウド サイトのユーザーのパスワード。

クラウド サイトの登録解除ワークフロー

このワークフローは、ローカル サイトとペアリングされているクラウド サイトの保存されたログイン認証情報を削除します。このワークフローを実行してもペアリングは切断されません。

手順

- 1 vRealize Orchestrator Client にシステム管理者でログインします。
- 2 [ワークフロー] ビューをクリックします。
- 3 検索ボックスに「**Unregister Cloud Site**」と入力して、[Enter] を押します。
- 4 ワークフローをクリックし、[実行] をクリックします。
- 5 登録解除するクラウド サイトを選択して、[実行] をクリックします。

スタンドアロン組織の登録解除ワークフロー

このワークフローは、登録済みのクラウド組織の保存されているログイン認証情報を削除します。

手順

- 1 vRealize Orchestrator Client にシステム管理者でログインします。
- 2 [ワークフロー] ビューをクリックします。
- 3 検索ボックスに「**Unregister Standalone Org**」と入力して、[Enter] を押します。

- 4 ワークフローをクリックし、[実行] をクリックします。
- 5 登録解除するスタンドアロン組織を選択して、[実行] をクリックします。

vCenter Server サイトの登録解除ワークフロー

このワークフローは、ローカル サイトとペアリングされている vCenter Server サイトの保存されたログイン認証情報を削除します。このワークフローを実行してもペアリングは切断されません。

手順

- 1 vRealize Orchestrator Client にシステム管理者でログインします。
- 2 [ワークフロー] ビューをクリックします。
- 3 検索ボックスに「**Unregister VC Site**」と入力して、[Enter] を押します。
- 4 ワークフローをクリックし、[実行] をクリックします。
- 5 登録解除する vCenter Server サイトを選択して、[実行] をクリックします。

同期ワークフロー

同期ワークフローを使用すると、ローカル サイトとリモート vCenter Server またはクラウド サイト間でレプリケーションが構成されている仮想マシンのデータをレプリケートできます。

クラウドへのレプリケーションの完全同期ワークフロー

このワークフローは、ローカル サイトからターゲット クラウド サイトへの正方向レプリケーションが構成されている仮想マシンに対して完全同期を実行します。

前提条件

完全同期を実行する仮想マシンがパワーオン状態であることを確認します。

手順

- 1 vRealize Orchestrator Client にシステム管理者でログインします。
- 2 [ワークフロー] ビューをクリックします。
- 3 検索ボックスに「**Full Sync Replication to Cloud**」と入力して、[Enter] を押します。
- 4 ワークフローをクリックし、[実行] をクリックします。
- 5 同期するレプリケーションを選択して、[実行] をクリックします。

vCenter Server へのレプリケーションの完全同期ワークフロー

このワークフローは、ローカル サイトからターゲット vCenter Server サイトへの正方向レプリケーションが構成されている仮想マシンに対して完全同期を実行します。

前提条件

完全同期を実行する仮想マシンがパワーオン状態であることを確認します。

手順

- 1 vRealize Orchestrator Client にシステム管理者でログインします。
- 2 [ワークフロー] ビューをクリックします。
- 3 検索ボックスに「**Full Sync Replication to VC**」と入力して、[Enter] を押します。
- 4 ワークフローをクリックし、[実行] をクリックします。
- 5 同期するレプリケーションを選択して、[実行] をクリックします。

クラウドからのレプリケーションのオフライン同期ワークフロー

このワークフローは、ターゲット クラウド サイトからローカル サイトへの逆方向レプリケーションが構成されている仮想マシンに対してオフライン同期を実行します。

手順

- 1 vRealize Orchestrator Client にシステム管理者でログインします。
- 2 [ワークフロー] ビューをクリックします。
- 3 検索ボックスで、「**Offline Sync Replication From Cloud**」と入力して、[Enter] を押します。
- 4 ワークフローをクリックし、[実行] をクリックします。
- 5 ワークフローで必要な入力パラメータを入力し、[実行] をクリックします。

表 4-13. クラウドからのレプリケーションのオフライン同期ワークフローの入力

入力	説明
共通パラメータ	リモート仮想データセンター サイト
	ターゲット クラウド サイト。
	同期するレプリケーション
	オフライン同期を実行する、ターゲット クラウド サイトからの逆方向レプリケーションが構成されている仮想マシン。

クラウドへのレプリケーションのオフライン同期ワークフロー

このワークフローは、ローカル サイトからターゲット クラウド サイトへの正方向レプリケーションが構成されている仮想マシンに対してオフライン同期を実行します。

手順

- 1 vRealize Orchestrator Client にシステム管理者でログインします。
- 2 [ワークフロー] ビューをクリックします。
- 3 検索ボックスで、「**Offline Sync Replication To Cloud**」と入力して、[Enter] を押します。
- 4 ワークフローをクリックし、[実行] をクリックします。
- 5 同期するレプリケーションを選択して、[実行] をクリックします。

vCenter Server へのレプリケーションのオフライン同期ワークフロー

このワークフローは、ターゲット vCenter Server サイトへの正方向レプリケーションが構成されている仮想マシンに対してオフライン同期を実行します。

手順

- 1 vRealize Orchestrator Client にシステム管理者でログインします。
- 2 [ワークフロー] ビューをクリックします。
- 3 検索ボックスで、**Offline Sync Replication to VC** と入力して、[Enter] を押します。
- 4 ワークフローをクリックし、[実行] をクリックします。
- 5 同期するレプリケーションを選択して、[実行] をクリックします。

クラウドからのレプリケーションの同期ワークフロー

このワークフローは、ターゲット クラウド サイトからの逆方向レプリケーションが構成されている仮想マシンに対して差分同期を実行します。

手順

- 1 vRealize Orchestrator Client にシステム管理者でログインします。
- 2 [ワークフロー] ビューをクリックします。
- 3 検索ボックスに **Sync Replication from Cloud** と入力して、[Enter] を押します。
- 4 ワークフローをクリックし、[実行] をクリックします。
- 5 ワークフローで必要な入力パラメータを入力し、[実行] をクリックします。

表 4-14. クラウドからのレプリケーションの同期ワークフローの入力

入力	説明
共通パラメータ	<div data-bbox="603 1320 906 1346">リモート仮想データセンター サイト</div> <div data-bbox="1019 1320 1265 1346">ターゲット クラウド サイト。</div> <div data-bbox="603 1371 826 1396">同期するレプリケーション</div> <div data-bbox="1019 1371 1425 1457">差分同期を実行する、ターゲット クラウド サイトからの逆方向レプリケーションが構成されている仮想マシン。</div>

クラウドへのレプリケーションの同期ワークフロー

このワークフローは、ターゲット クラウド サイトへの正方向レプリケーションが構成されている仮想マシンに対して差分同期を実行します。

手順

- 1 vRealize Orchestrator Client にシステム管理者でログインします。
- 2 [ワークフロー] ビューをクリックします。
- 3 検索ボックスに **Sync Replication to Cloud** と入力して、[Enter] を押します。

- 4 ワークフローをクリックし、[実行] をクリックします。
- 5 同期するレプリケーションを選択して、[実行] をクリックします。

vCenter Server へのレプリケーションの同期ワークフロー

このワークフローは、ターゲット vCenter Server サイトへの正方向レプリケーションが構成されている仮想マシンに対して差分同期を実行します。

手順

- 1 vRealize Orchestrator Client にシステム管理者でログインします。
- 2 [ワークフロー] ビューをクリックします。
- 3 検索ボックスに「**Sync Replication to VC**」と入力して、[Enter] を押します。
- 4 ワークフローをクリックし、[実行] をクリックします。
- 5 同期するレプリケーションを選択して、[実行] をクリックします。

レプリケーションの構成ワークフロー

vSphere Replication プラグインの [レプリケーションの構成] ワークフローを使用すると、ローカル サイトとリモート vCenter Server またはクラウド サイト間の仮想マシンのレプリケーションを構成できます。

レプリケーションを行うために仮想マシンを構成すると、vSphere Replication は仮想マシンのデータをターゲット サイトに送信する初期構成タスクを開始します。レプリケーションをリカバリすると、これによって仮想マシンのレプリカが作成され、ソース サイトとターゲット サイト間でデータ同期が発生します。選択したワークフローのリカバリ設定で、複数の特定の時点 (MPIT) インスタンスを設定できます。vSphere Replication は、最大で 24 個の仮想マシンのスナップショット インスタンスをターゲット サイトで保持します。

パワーオフ状態の仮想マシンのレプリケーションを構成することはできますが、データの同期は仮想マシンがパワーオンされたときに開始されます。ソース仮想マシンがパワーオフ状態のとき、レプリケーションは Not active ステータスになります。

レプリケーションの構成ワークフロー

このワークフローは、ローカル サイトから別の vCenter Server サイトへの仮想マシンのレプリケーションを構成します。

前提条件

- vSphere Replication アプライアンスがソース サイトとターゲット サイトにデプロイされていることを確認します。
- Linux ゲスト OS を稼働している仮想マシンの静止を有効にするには、レプリケートする予定のすべての Linux マシンに最新バージョンの VMware Tools をインストールします。

手順

- 1 vRealize Orchestrator Client にシステム管理者でログインします。

- 2 [ワークフロー] ビューをクリックします。
- 3 検索ボックスに「**Configure Replication**」と入力し、[Enter] を押します。
- 4 ワークフローをクリックし、[実行] をクリックします。
- 5 ワークフローで必要な入力パラメータを入力し、[実行] をクリックします。

表 4-15. レプリケーションの構成ワークフローの入力

入力		説明
ソース	サイト	ローカル vCenter Server サイト。
	ソースの仮想マシン	レプリケートする仮想マシン。
ターゲット	サイト	リモート vCenter Server サイト。
	ターゲット データストア	レプリケート先のリモート データストア。
レプリケーション設定	RPO (分単位)	リカバリ ポイントの目標 (分単位、デフォルト値は 240)。
	ゲスト OS の静止	OS の静止を有効にするとデータのー貫性が向上しますが、RPO 時間が制限されます。
	ネットワーク圧縮	レプリケーション データの圧縮を有効にするとネットワーク バンド幅が削減されますが、CPU 使用率が高くなります。
	特定の時点のインスタンス	仮想マシンごとにサポートされるスナップショットの最大数は 24 です。
	有効な特定の時点	1 日あたりのインスタンス数 (日数を掛けた結果が 24 を超えないこと)
	日数	スナップショットが保持される日数。

クラウドへのレプリケーションの構成ワークフロー

このワークフローは、ローカル サイトから登録されているクラウド サイトへの仮想マシンのレプリケーションを構成します。

仮想マシンがパワーオンされていない場合、レプリケーションは構成されますが、初期完全同期は仮想マシンがパワーオンされたときに完了します。レプリケーションが構成されている仮想マシンに対してこのワークフローを実行することはできません。

前提条件

- vSphere 環境と仮想データセンター間で接続が構成されていることを確認します。クラウド サイトとのペアリング方法の詳細については、[クラウド サイトとのペアリング ワークフロー](#)を参照してください。
- 使用するクラウド サイトのログイン認証情報が登録されていることを確認します。[クラウド サイトの登録ワークフロー](#)を参照してください。

手順

- 1 vRealize Orchestrator Client にシステム管理者でログインします。
- 2 [ワークフロー] ビューをクリックします。

- 3 検索ボックスに「**Configure Replication to Cloud**」と入力して、[Enter] を押します。
- 4 ワークフローをクリックし、[実行] をクリックします。
- 5 ワークフローで必要な入力パラメータを入力し、[実行] をクリックします。

表 4-16. クラウドへのレプリケーションの構成ワークフローの入力

入力		説明
ソース	サイト	ローカル vCenter Server サイト。
	ソースの仮想マシン	レプリケートする仮想マシン。
ターゲット	クラウド サイト	リモート クラウド サイト。
	レプリケーション シードの使用	初期同期には、仮想マシン ディスク ファイルを使用します。
	レプリケーション シードとして使用する、以前にインポートした vApp	インポートしたレプリケーション シードがある vApp または仮想マシン。
レプリケーション設定	RPO (分単位)	リカバリ ポイントの目標 (分単位、デフォルト値は 240)。
	ゲスト OS の静止	OS の静止を有効にするとデータの一貫性が向上しますが、RPO 時間が制限されます。
	ネットワーク圧縮	レプリケーション データの圧縮を有効にするとネットワーク バンド幅が削減されますが、CPU 使用率が高くなります。
	特定の時点のインスタンス	仮想マシンごとにサポートされるスナップショットの最大数は 24 です。
	有効な特定の時点	1 日あたりのインスタンス数 (日数を掛けた結果が 24 を超えないこと)
	日数	スナップショットが保持される日数。

クラウドからのレプリケーションの構成ワークフロー

このワークフローは、クラウド サイトからローカル サイトへの仮想マシンまたは vApp のレプリケーションを構成します。

仮想マシンがパワーオンされていない場合、レプリケーションは構成されますが、初期完全同期は仮想マシンがパワーオンされたときに完了します。レプリケーションが構成されている仮想マシンに対してこのワークフローを実行することはできません。

前提条件

- vSphere 環境と仮想データセンター間で接続が構成されていることを確認します。クラウド サイトとのペアリング方法の詳細については、[クラウド サイトとのペアリング ワークフロー](#)を参照してください。
- 使用するクラウド サイトのログイン認証情報が登録されていることを確認します。[クラウド サイトの登録ワークフロー](#)を参照してください。

手順

- 1 vRealize Orchestrator Client にシステム管理者でログインします。
- 2 [ワークフロー] ビューをクリックします。

- 3 検索ボックスに「**Configure Replication from Cloud**」と入力して、[Enter] を押します。
- 4 ワークフローをクリックし、[実行] をクリックします。
- 5 ワークフローに必要な入力パラメータを入力し、[実行] をクリックします。

表 4-17. クラウドからのレプリケーションの構成ワークフローの入力

入力		説明
ソース	クラウド サイト	リモート クラウド サイト。
	ソースの vApp	レプリケートする vApp または仮想マシン。
ターゲット	データストア	レプリケート先のローカル データストア。
レプリケーション設定	RPO (分単位)	リカバリ ポイントの目標 (分単位、デフォルト値は 240)。
	ゲスト OS の静止	OS の静止を有効にするとデータの一貫性が向上しますが、RPO 時間が制限されます。
	ネットワーク圧縮	レプリケーション データの圧縮を有効にするとネットワーク バンド幅が削減されますが、CPU 使用率が高くなります。
	特定の時点のインスタンス	仮想マシンごとにサポートされるスナップショットの最大数は 24 です。
	有効な特定の時点	1 日あたりのインスタンス数 (日数を掛けた結果が 24 を超えないこと)
	日数	スナップショットが保持される日数。

複数の仮想マシンの保護ワークフロー

このワークフローは、ローカル サイトからリモート vSphere またはクラウド サイトへの複数の仮想マシンのレプリケーションを構成します。

選択した 1 台またはすべての仮想マシンがパワーオンされていない場合、レプリケーションは構成されますが、初期完全同期は仮想マシンがパワーオンされたときに完了します。このワークフローは、仮想マシンの配列に含まれるレプリケートされた仮想マシンに対して実行できますが、その仮想マシンのレプリケーションは再構成されません。仮想マシンの配列に含まれる、まだレプリケートされていない残りの仮想マシンは、レプリケーション用に構成されます。

前提条件

- ローカル サイトと vCenter Server またはクラウド サイトとの間に接続が構成されていることを確認します。詳細については、[vCenter Server サイトとのペアリング ワークフロー](#)または[クラウド サイトとのペアリング ワークフロー](#)を参照してください。
- 使用するリモート vCenter Server またはクラウド サイトのログイン認証情報が登録されていることを確認します。[vCenter Server サイトの登録ワークフロー](#)または[クラウド サイトの登録ワークフロー](#)を参照してください。

手順

- 1 vRealize Orchestrator Client にシステム管理者でログインします。

- 2 [ワークフロー] ビューをクリックします。
- 3 検索ボックスに「**Protect multiple VMs**」と入力し、[Enter] を押します。
- 4 ワークフローをクリックし、[実行] をクリックします。
- 5 ワークフローで必要な入力パラメータを入力し、[実行] をクリックします。

表 4-18. 複数の仮想マシンの保護ワークフローの入力

入力			説明
ソース	保護する仮想マシンを管理する vCenter Server		ローカル vCenter Server サイト。
	ターゲット サイトのタイプを選択		ターゲット サイトのタイプ - リモート vCenter Server サイトまたはクラウド サイト。
	レプリケートする仮想マシン		リモート サイトにレプリケートする仮想マシンの配列。
ターゲット サイト	レプリケーションのターゲットとして使用するサイト		前の手順で選択したターゲット サイトのタイプに応じて、使用可能な vCenter Server またはクラウド サイトを選択します。
ターゲットの場所	ターゲット vCenter Server サイト	ターゲット データストア	ターゲットが vCenter Server サイトの場合にレプリケート先となるデータストア。
	ターゲット クラウド サイト	レプリケーション シードの使用 レプリケーション シードとして使用する、以前にインポートした vApp	ターゲットがクラウド サイトの場合はレプリケーションにレプリケーション シードを使用します。
レプリケーション設定	ゲスト OS の静止		OS の静止を有効にするとデータの一貫性が向上しますが、RPO 時間が制限されます。
	RPO (分単位)		リカバリ ポイントの目標 (分単位、デフォルト値は 240)。
	ネットワーク圧縮		レプリケーション データの圧縮を有効にするとネットワーク バンド幅が削減されますが、CPU 使用率が高くなります。
	特定の時点のインスタンス		仮想マシンごとにサポートされるスナップショットの最大数は 24 です。
	有効な特定の時点	1 日あたりのインスタンス数 (日数を掛けた結果が 24 を超えないこと)	1 日に作成するスナップショットの数。
		日数	スナップショットが保持される日数。

クラウド レプリケーションの反転ワークフロー

このワークフローは、クラウド サイトでリカバリされた仮想マシンのレプリケーションを反転し、再構成します。

前提条件

仮想マシンが Recovered 状態であり、ローカル vCenter Server サイトでパワーオフ状態であることを確認します。

手順

- 1 vRealize Orchestrator Client にシステム管理者でログインします。

- 2 [ワークフロー] ビューをクリックします。
- 3 検索ボックスに「**Reverse a Cloud Replication**」と入力し、[Enter] を押します。
- 4 ワークフローをクリックし、[実行] をクリックします。
- 5 ワークフローで必要な入力パラメータを入力し、[実行] をクリックします。

表 4-19. クラウド レプリケーションの反転ワークフローの入力

入力	説明
レプリケーション	サイト
	ターゲット クラウド サイト。
	レプリケーション
	選択したクラウド サイトとの間でレプリケートする仮想マシン。

レプリケーションの再構成ワークフロー

このワークフローを使用すると、新しい仮想ハードディスク上でレプリケーションを再構成し、デフォルトのシードで仮想マシンフォルダ内のレプリカ ディスクを使用できるほか、レプリケーションの設定を変更できます。

前提条件

- vSphere Replication アプライアンスがソース サイトとターゲット サイトにデプロイされていることを確認します。
- Linux ゲスト OS を稼働している仮想マシンの静止を有効にするには、レプリケートする予定のすべての Linux マシンに最新バージョンの VMware Tools をインストールします。

手順

- 1 vRealize Orchestrator Client にシステム管理者でログインします。
- 2 [ワークフロー] ビューをクリックします。
- 3 検索ボックスに「**Reconfigure Replication**」と入力し、[Enter] を押します。
- 4 ワークフローをクリックし、[実行] をクリックします。

5 ワークフローに必要な入力パラメータを入力し、[実行] をクリックします。

表 4-20. レプリケーションの再構成ワークフローの入力

入力		説明
ソース	レプリケーション	再構成するレプリケーション。
レプリケーション設定	ディスク	デフォルトのレプリケーションシードを使用
		レプリケーションで有効なディスク
		レプリケーションから除外されたディスク
		すべての有効なディスクのターゲット データストア
	詳細	RPO（分単位）
		ゲスト OS の静止
		ネットワーク圧縮
		特定の時点のインスタンス
	MPIT	1 日あたりのインスタンス数（日数を掛けた結果が 24 を超えないこと）
	日数	スナップショットが保持される日数。

一時停止ワークフロー

[一時停止] ワークフローを使用すると、ソースとターゲット サイト間の仮想マシンのレプリケーションを一時停止できます。レプリケーションが一時停止されると、すべての同期呼び出しがブロックされ、ソースとターゲット サイト間でデータが同期されません。レプリケーションは構成解除されず、再開することができます。

vCenter Server へのレプリケーションの一時停止

このワークフローは、ローカル サイトからリモート vCenter Server サイトへの仮想マシンのレプリケーションを一時停止します。

前提条件

ローカル サイトからリモート vCenter Server サイトへのレプリケーションが構成されていることを確認します。[レプリケーションの構成ワークフロー](#)または[複数の仮想マシンの保護ワークフロー](#)を参照してください。

手順

1 vRealize Orchestrator Client にシステム管理者でログインします。

- 2 [ワークフロー] ビューをクリックします。
- 3 検索ボックスで、「**Pause Replication to VC**」と入力して、[Enter] を押します。
- 4 ワークフローをクリックし、[実行] をクリックします。
- 5 レプリケーションを一時停止する仮想マシンを選択して、[実行] をクリックします。

クラウドへのレプリケーションの一時停止ワークフロー

このワークフローは、ローカル サイトからリモート クラウド サイトへの仮想マシンのレプリケーションを一時停止します。

前提条件

ローカル サイトからリモート クラウド サイトへのレプリケーションが構成されていることを確認します。 [クラウドへのレプリケーションの構成ワークフロー](#) を参照してください。

手順

- 1 vRealize Orchestrator Client にシステム管理者でログインします。
- 2 [ワークフロー] ビューをクリックします。
- 3 検索ボックスに「**Pause Replication to Cloud**」と入力して、[Enter] を押します。
- 4 ワークフローをクリックし、[実行] をクリックします。
- 5 レプリケーションを一時停止する仮想マシンを選択して、[実行] をクリックします。

クラウドからのレプリケーションの一時停止ワークフロー

このワークフローは、リモート クラウド サイトからローカル サイトへの vApp または仮想マシンのレプリケーションを一時停止します。

前提条件

リモート クラウド サイトからローカル サイトへのレプリケーションが構成されていることを確認します。 [クラウドからのレプリケーションの構成ワークフロー](#) を参照してください。

手順

- 1 vRealize Orchestrator Client にシステム管理者でログインします。
- 2 [ワークフロー] ビューをクリックします。
- 3 検索ボックスに「**Pause Replication from Cloud**」と入力して、[Enter] を押します。
- 4 ワークフローをクリックし、[実行] をクリックします。

5 ワークフローで必要な入力パラメータを入力し、[実行] をクリックします。

表 4-21. クラウドからのレプリケーションの一時停止ワークフローの入力

入力	説明
共通パラメータ	リモート仮想データセンター サイト
	一時停止するレプリケーション
	リモート クラウド サイト。 レプリケーションを一時停止する、レプリケート元のクラウド サイトの仮想マシンまたは vApp。

再開ワークフロー

[再開] ワークフローを使用すると、ローカル サイトとリモート vCenter Server またはクラウド サイトとの間で構成されている一時停止されたレプリケーションを再開できます。

vCenter Server へのレプリケーションの再開ワークフロー

このワークフローは、ターゲット vCenter Server サイトへの一時停止した正方向レプリケーションを再開します。

手順

- 1 vRealize Orchestrator Client にシステム管理者でログインします。
- 2 [ワークフロー] ビューをクリックします。
- 3 検索ボックスに「**Resume Replication to VC**」と入力して、[Enter] を押します。
- 4 ワークフローをクリックし、[実行] をクリックします。
- 5 再開するレプリケーションを選択して、[実行] をクリックします。

クラウドへのレプリケーションの再開ワークフロー

このワークフローは、ターゲット クラウド サイトへの一時停止した正方向レプリケーションを再開します。

手順

- 1 vRealize Orchestrator Client にシステム管理者でログインします。
- 2 [ワークフロー] ビューをクリックします。
- 3 検索ボックスに「**Resume Replication to Cloud**」と入力して、[Enter] を押します。
- 4 ワークフローをクリックし、[実行] をクリックします。
- 5 再開するレプリケーションを選択して、[実行] をクリックします。

クラウドからのレプリケーションの再開ワークフロー

このワークフローは、ターゲット クラウド サイトからの一時停止した逆方向レプリケーションを再開します。

手順

- 1 vRealize Orchestrator Client にシステム管理者でログインします。
- 2 [ワークフロー] ビューをクリックします。
- 3 検索ボックスに「**Resume Replication from Cloud**」と入力して、[Enter] を押します。
- 4 ワークフローをクリックし、[実行] をクリックします。
- 5 ワークフローで必要な入力パラメータを入力し、[実行] をクリックします。

表 4-22. クラウドからのレプリケーションの再開ワークフローの入力

入力	説明
共通パラメータ	リモート仮想データセンター サイト
	リモート クラウド サイト。
	再開するレプリケーション
	レプリケーションを再開する、レプリケート元のクラウド サイトの仮想マシン。

レプリケーションの停止ワークフロー

[レプリケーションの停止] ワークフローを使用すると、ローカル サイトとリモート vCenter Server またはクラウド サイト間に構成されている仮想マシンのレプリケーションを停止できます。レプリケーションを停止すると、レプリケーションが構成解除され、ターゲットの場所のレプリケートされたデータが削除されます。

レプリケーションの停止ワークフロー

このワークフローは、ターゲット vCenter Server サイトへの仮想マシンの正方向レプリケーションを停止します。

手順

- 1 vRealize Orchestrator Client にシステム管理者でログインします。
- 2 [ワークフロー] ビューをクリックします。
- 3 検索ボックスに「**Stop Replication**」と入力し、[Enter] を押します。
- 4 ワークフローをクリックし、[実行] をクリックします。
- 5 ワークフローで必要な入力パラメータを入力し、[実行] をクリックします。

表 4-23. レプリケーションの停止ワークフローの入力

入力	説明
サイト	リモート vCenter Server サイト。
レプリケーション	レプリケーションを停止する仮想マシン。

クラウドへのレプリケーションの停止ワークフロー

このワークフローは、ローカル サイトからターゲット クラウド サイトへの正方向レプリケーションを停止します。

手順

- 1 vRealize Orchestrator Client にシステム管理者でログインします。
- 2 [ワークフロー] ビューをクリックします。
- 3 検索ボックスに「**Stop Replication to Cloud**」と入力して、[Enter] を押します。
- 4 ワークフローをクリックし、[実行] をクリックします。
- 5 ワークフローで必要な入力パラメータを入力し、[実行] をクリックします。

表 4-24. クラウドへのレプリケーションの停止ワークフローの入力

入力	説明
クラウド サイト	リモート ターゲット クラウド サイト。
レプリケーション	正方向レプリケーションを停止する仮想マシン。

クラウドからのレプリケーションの停止ワークフロー

このワークフローは、ターゲット クラウド サイトからローカル サイトへの逆方向レプリケーションを停止します。

手順

- 1 vRealize Orchestrator Client にシステム管理者でログインします。
- 2 [ワークフロー] ビューをクリックします。
- 3 検索ボックスに「**Stop Replication from Cloud**」と入力して、[Enter] を押します。
- 4 ワークフローをクリックし、[実行] をクリックします。
- 5 ワークフローで必要な入力パラメータを入力し、[実行] をクリックします。

表 4-25. クラウドからのレプリケーションの停止ワークフローの入力

入力	説明
クラウド サイト	リモート クラウド サイト。
レプリケーション	逆方向レプリケーションを停止する仮想マシン。

クラウドへのリカバリ ワークフロー

[クラウドへのリカバリ] ワークフローを使用すると、ローカル サイトからリモート クラウド サイトへの計画移行、テスト、および実際のリカバリを実行できます。各ワークフローは、一度に 1 台の仮想マシンに対して実行されます。

クラウドへのテスト リカバリの実行ワークフロー

このワークフローは、クラウド サイトへの正方向レプリケーションが構成されている仮想マシンに対して、テスト リカバリをローカル サイトで実行します。

リカバリは、ローカル サイトでテストされます。ターゲット クラウド サイトへの正方向レプリケーションが構成されている仮想マシンを選択する必要があります。このワークフローを実行する前に、以前のテスト リカバリ結果がクリーンアップされていることを確認します。ワークフローが終了すると、仮想マシンのテスト ステータスが変更されます。計画移行または実際のリカバリを実行する前に、結果をクリーンアップする必要があります。

手順

- 1 vRealize Orchestrator Client にシステム管理者でログインします。
- 2 [ワークフロー] ビューをクリックします。
- 3 検索ボックスに「**Run Test Recovery to Cloud**」と入力して、[Enter] を押します。
- 4 ワークフローをクリックし、[実行] をクリックします。
- 5 ワークフローで必要な入力パラメータを入力し、[実行] をクリックします。

表 4-26. クラウドへのテスト リカバリの実行ワークフローの入力

入力		説明
レプリケーション	サイト	テスト リカバリの実行先のターゲット クラウド サイト。
	レプリケーション	テスト リカバリを実行する、正方向レプリケーションが構成されている仮想マシン。
リカバリ設定	リカバリされた仮想マシンをパワーオン	選択すると、リカバリ後に、リカバリされた仮想マシンをパワーオンします。
	最新の変更の同期	RPO の期間内での仮想マシンに対する変更のオンライン同期。

クラウド サイトでのテスト リカバリの実行ワークフロー

このワークフローは、ターゲット クラウド サイトへの正方向レプリケーションが構成されている仮想マシンに対して、テスト リカバリをリモート クラウド サイトで実行します。

このワークフローは、ターゲット クラウド サイトで実行されます。このワークフローは、ローカル サイトからターゲット クラウド サイトへの正方向レプリケーションが構成されている仮想マシンに対して実行する必要があります。

手順

- 1 vRealize Orchestrator Client にシステム管理者でログインします。
- 2 [ワークフロー] ビューをクリックします。
- 3 検索ボックスに「**Run Test Recovery at the Cloud Site**」と入力して、[Enter] を押します。
- 4 ワークフローをクリックし、[実行] をクリックします。

5 ワークフローで必要な入力パラメータを入力し、[実行] をクリックします。

表 4-27. クラウド サイトでのテスト リカバリの実行ワークフローの入力

入力		説明
リカバリ設定	レプリケーション	テスト リカバリを実行する、ターゲット クラウド サイトへの正方向レプリケーションが構成されている仮想マシン。
	最新の変更の同期	RPO の期間内での仮想マシンに対する変更のオンライン同期。
	リカバリ済み仮想マシンをパワーオンします	選択すると、リカバリ後に、リカバリされた仮想マシンをパワーオンします。

クラウドへのテスト クリーンアップの実行ワークフロー

このワークフローは、ターゲット クラウド サイトへの正方向レプリケーションが構成されている仮想マシンのローカル サイトでのテスト リカバリ結果をクリーンアップします。

このワークフローでは、実行前に仮想マシンのテスト ステータスが確認されます。このワークフローは、リカバリがテストされている仮想マシンに対して実行する必要があります。ターゲット クラウド サイトへの正方向レプリケーションが構成されている仮想マシンを選択する必要があります。

手順

- 1 vRealize Orchestrator Client にシステム管理者でログインします。
- 2 [ワークフロー] ビューをクリックします。
- 3 検索ボックスに「Run Test Cleanup to Cloud」と入力して、[Enter] を押します。
- 4 ワークフローをクリックし、[実行] をクリックします。
- 5 ワークフローで必要な入力パラメータを入力し、[実行] をクリックします。

表 4-28. クラウドへのテスト クリーンアップの実行ワークフローの入力

入力		説明
サイト	クラウド サイト	テスト リカバリの実行先のターゲット クラウド サイト。
レプリケーション	レプリケーション	ローカル サイトからターゲット クラウド サイトへの正方向レプリケーションが構成されている仮想マシン。

クラウド サイトでのテスト クリーンアップの実行ワークフロー

このワークフローは、ターゲット クラウド サイトへの正方向レプリケーションが構成されている仮想マシンのリモート クラウド サイトでのテスト リカバリ結果をクリーンアップします。

前提条件

このワークフローは、ターゲット クラウド サイトで実行されます。このワークフローを実行する前に、ターゲット クラウド サイトで仮想マシンのテスト リカバリを実行する必要があります。

手順

- 1 vRealize Orchestrator Client にシステム管理者でログインします。
- 2 [ワークフロー] ビューをクリックします。
- 3 検索ボックスに「**Run Test Cleanup at the Cloud Site**」と入力して、[Enter] を押します。
- 4 ワークフローをクリックし、[実行] をクリックします。
- 5 テスト リカバリのクリーンアップを実行するレプリケーションを選択して、[実行] をクリックします。

クラウドへの計画移行の実行ワークフロー

このワークフローは、ローカル サイトからターゲット クラウド サイトへの正方向レプリケーションが構成されている仮想マシンに対して計画移行を実行します。

ローカル サイトからターゲット クラウド サイトへの正方向レプリケーションが構成されている仮想マシンを選択する必要があります。

前提条件

移行する仮想マシンのテスト リカバリを実行している場合は、結果をクリーンアップしたことを確認します。仮想マシンのテスト ステータスは vSphere Replication ユーザー インターフェイスで確認できます。

手順

- 1 vRealize Orchestrator Client にシステム管理者でログインします。
- 2 [ワークフロー] ビューをクリックします。
- 3 検索ボックスに「**Run Planned Migration to Cloud**」と入力して、[Enter] を押します。
- 4 ワークフローをクリックし、[実行] をクリックします。
- 5 ワークフローで必要な入力パラメータを入力し、[実行] をクリックします。

表 4-29. クラウドへの計画移行の実行ワークフローの入力

入力		説明
レプリケーション	クラウド サイト	仮想マシンの移行先のターゲット クラウド サイト。
	レプリケーション	クラウド サイトに移行する仮想マシン。

入力		説明
リカバリ設定	リカバリされた仮想マシンをパワーオン	選択すると、リカバリ後に、リカバリされた仮想マシンをパワーオンします。
	ゲスト シャットダウン (VMware Tools が必要)	選択すると、リカバリを遅延させ、オペレーティングシステムがシャットダウンするまでの時間を指定できます。
	シャットダウンのタイムアウト (秒単位)	シャットダウン タイムアウトを秒単位で指定します。

クラウドへの実際のリカバリの実行ワークフロー

このワークフローは、ローカル サイトからターゲット クラウド サイトに仮想マシンをリカバリします。

ターゲット クラウド サイトへの正方向レプリケーションが構成されている仮想マシンを選択する必要があります。

手順

- 1 vRealize Orchestrator Client にシステム管理者でログインします。
- 2 [ワークフロー] ビューをクリックします。
- 3 検索ボックスに「**Run Real Recovery to Cloud**」と入力して、[Enter] を押します。
- 4 ワークフローをクリックし、[実行] をクリックします。
- 5 ワークフローで必要な入力パラメータを入力し、[実行] をクリックします。

表 4-30. クラウドへの実際のリカバリの実行ワークフローの入力

入力		説明
リカバリ設定	レプリケーション	クラウド サイトにリカバリする仮想マシン。
	リカバリ済み仮想マシンをパワーオンします	選択すると、リカバリ後に、リカバリされた仮想マシンをパワーオンします。

クラウドからのリカバリ ワークフロー

[クラウドからのリカバリ] ワークフローを使用すると、リモート クラウド サイトからローカル サイトへの計画移行、テスト、および実際のリカバリを実行できます。各ワークフローは、一度に 1 台の仮想マシンに対して実行されます。

クラウドからのテスト リカバリの実行ワークフロー

このワークフローは、ターゲット クラウド サイトからの逆方向レプリケーションが構成されている仮想マシンに対して、テスト リカバリをローカル サイトで実行します。

リカバリは、ローカル サイトでテストされます。

前提条件

- ターゲット クラウド サイトからの逆方向レプリケーションが構成されている仮想マシンを選択する必要があります。
- このワークフローを実行する前に、以前のテスト リカバリ結果がクリーンアップされていることを確認します。

手順

- 1 vRealize Orchestrator Client にシステム管理者でログインします。
- 2 [ワークフロー] ビューをクリックします。
- 3 検索ボックスに「**Run Test Recovery from Cloud**」と入力して、[Enter] を押します。
- 4 ワークフローをクリックし、[実行] をクリックします。
- 5 ワークフローで必要な入力パラメータを入力し、[実行] をクリックします。

表 4-31. クラウドからのテスト リカバリの実行ワークフローの入力

入力		説明
レプリケーション	クラウド サイト	テスト リカバリの実行元のターゲット クラウド サイト。
	レプリケーション	テスト リカバリを実行する、逆方向レプリケーションが構成されている仮想マシン。
リカバリ設定	仮想マシン フォルダ	仮想マシン リカバリをテストする、ローカル vCenter Server 上の仮想マシン フォルダ。
	リソース プール	仮想マシン リカバリをテストする、ローカル vCenter Server 上のリソース プール。
	最新の変更の同期	RPO の期間内での仮想マシンに対する変更のオンライン同期。
	リカバリ済み仮想マシンをパワーオンします	選択すると、リカバリ後に、リカバリされた仮想マシンをパワーオンします。

次のステップ

仮想マシンのテスト ステータスが変更されます。計画移行または実際のリカバリを実行する前に、結果をクリーンアップする必要があります。

クラウドからのテスト クリーンアップの実行ワークフロー

このワークフローは、ターゲット クラウド サイトからの逆方向レプリケーションが構成されている仮想マシンのローカル サイトでのテスト リカバリ結果をクリーンアップします。

このワークフローでは、実行前に仮想マシンのテスト ステータスが確認されません。このワークフローは、リカバリがテストされていない仮想マシンに対しても実行することができます。リモート クラウド サイトからローカル サイトへの逆方向レプリケーションが構成されている仮想マシンを選択する必要があります。

前提条件

- [クラウドからのテスト リカバリの実行ワークフロー](#)

手順

- 1 vRealize Orchestrator Client にシステム管理者でログインします。
- 2 [ワークフロー] ビューをクリックします。
- 3 検索ボックスに「**Run Test Cleanup from Cloud**」と入力して、[Enter] を押します。
- 4 ワークフローをクリックし、[実行] をクリックします。
- 5 ワークフローで必要な入力パラメータを入力し、[実行] をクリックします。

表 4-32. クラウドからのテスト クリーンアップの実行ワークフローの入力

入力		説明
サイト	クラウド サイト	テスト リカバリの実行元のターゲット クラウド サイト。
レプリケーション	レプリケーション	ターゲット クラウド サイトからローカル サイトへの逆方向レプリケーションが構成されている仮想マシン。

クラウドからの計画移行の実行ワークフロー

このワークフローは、リモート クラウド サイトからローカル サイトへの逆方向レプリケーションが構成されている仮想マシンの計画移行を実行します。

リモート クラウド サイトからローカル サイトへの逆方向レプリケーションが構成されている仮想マシンを選択する必要があります。

前提条件

移行する仮想マシンのテスト リカバリを実行している場合は、結果をクリーンアップしたことを確認します。仮想マシンのテスト ステータスは vSphere Replication ユーザー インターフェイスで確認できます。

手順

- 1 vRealize Orchestrator Client にシステム管理者でログインします。
- 2 [ワークフロー] ビューをクリックします。
- 3 検索ボックスに「**Run Planned Migration from Cloud**」と入力して、[Enter] を押します。
- 4 ワークフローをクリックし、[実行] をクリックします。
- 5 ワークフローで必要な入力パラメータを入力し、[実行] をクリックします。

表 4-33. クラウドからの計画移行の実行ワークフローの入力

入力		説明
レプリケーション	クラウド サイト	仮想マシンの移行元のターゲット クラウド サイト。
	レプリケーション	ローカル サイトに移行する仮想マシン。

入力		説明
リカバリ設定	仮想マシン フォルダ	仮想マシンの移行先のローカル vCenter Server 上の仮想マシン フォルダ。
	リソース プール	仮想マシンの移行先のローカル vCenter Server 上のリソース プール。
	リカバリされた仮想マシンをパワーオン	選択すると、リカバリ後に、リカバリされた仮想マシンをパワーオンします。
	ゲスト シャットダウン (VMware Tools が必要)	選択すると、リカバリを遅延させ、オペレーティング システムがシャットダウンするまでの時間を指定できます。
	シャットダウンのタイムアウト (秒単位)	シャットダウン タイムアウトを秒単位で指定します。

クラウドからの実際のリカバリの実行

このワークフローは、ターゲット クラウド サイトからローカル サイトに仮想マシンをリカバリします。

ターゲット クラウド サイトからの逆方向レプリケーションが構成されている仮想マシンを選択する必要があります。リカバリされた仮想マシン用に、同じデータセンターにある仮想マシン フォルダとリソース プールを選択する必要があります。

手順

- 1 vRealize Orchestrator Client にシステム管理者でログインします。
- 2 [ワークフロー] ビューをクリックします。
- 3 検索ボックスに「**Run Real Recovery from Cloud**」と入力して、[Enter] を押します。
- 4 ワークフローをクリックし、[実行] をクリックします。
- 5 ワークフローで必要な入力パラメータを入力し、[実行] をクリックします。

表 4-34. クラウドからの実際のリカバリの実行ワークフローの入力

入力		説明
レプリケーション	クラウド サイト	仮想マシンのリカバリ元のターゲット クラウド サイト。
	レプリケーション	ローカル サイトにリカバリする仮想マシン。
リカバリ設定	仮想マシン フォルダ	仮想マシンのリカバリ先のローカル vCenter Server 上の仮想マシン フォルダ。
	リソース プール	仮想マシンのリカバリ先のローカル vCenter Server 上のリソース プール。
	リカバリされた仮想マシンをパワーオン	選択すると、リカバリ後に、リカバリされた仮想マシンをパワーオンします。

レプリケーションの詳細ワークフロー

[レプリケーションの詳細] ワークフローでは、レプリケーションのステータスや構成の詳細に関する情報を取得できます。ソース vCenter Server からすべての受信または発信レプリケーションのリストを取得できます。ワークフローの結果は、他のワークフローでパラメータとして使用できます。

レプリケーション ステータスのワークフローのチェック

このワークフローでは、レプリケーションのステータスを取得します。

前提条件

構成済みのレプリケーションがあることを確認してください。

手順

- 1 vRealize Orchestrator Client にシステム管理者でログインします。
- 2 [ワークフロー] ビューをクリックします。
- 3 検索ボックスに「**Check Replication Status**」と入力し、[Enter] を押します。
- 4 ワークフローをクリックし、[実行] をクリックします。
- 5 ステータスの検証を実行するレプリケーションを選択し、[実行] をクリックします。

ワークフローの [変数] タブの [値] 列で、レプリケーションのステータスを確認できます。値は、別のワークフローでパラメータとして使用できます。

レプリケーション構成の取得ワークフロー

このワークフローは、レプリケーションの構成の詳細を取得します。

前提条件

構成済みのレプリケーションがあることを確認してください。

手順

- 1 vRealize Orchestrator Client にシステム管理者でログインします。
- 2 [ワークフロー] ビューをクリックします。
- 3 検索ボックスに「**Get Replication Configuration**」と入力し、[Enter] を押します。
- 4 ワークフローをクリックし、[実行] をクリックします。
- 5 構成情報を取得するレプリケーションを選択して、[実行] をクリックします。

完了したワークフローの [変数] タブの [値] 列で、レプリケーションの構成情報を確認できます。値は、別のワークフローでパラメータとして使用できます。

レプリケーション リストの取得ワークフロー

このワークフローは、vCenter Server からすべての受信または発信レプリケーションのリストを取得します。

手順

- 1 vRealize Orchestrator Client にシステム管理者でログインします。
- 2 [ワークフロー] ビューをクリックします。
- 3 検索ボックスに、「**Get Replication List**」と入力し、[Enter] を押します。
- 4 ワークフローをクリックし、[実行] をクリックします。
- 5 ワークフローで必要な入力パラメータを入力し、[実行] をクリックします。

表 4-35. レプリケーション リストの取得ワークフローの入力

入力	説明
ソースの vCenter Server	ソース vCenter Server サイト。
レプリケーションの方向	取得するレプリケーションの方向。

完了したワークフローの [変数] タブの [値] 列で、レプリケーションのリストを確認できます。値は、別のワークフローでパラメータとして使用できます。